

成果報告書

総合政策学部4年
学籍番号: 72000476
飯田知世

1. 研究概要

マレーシアは近年、世界の舞台で好まれる高等教育ハブとして発展・成長している。そしてその高等教育の国際化・市場化が進む背景のもと、その中でも海外の私立大学の分校が着実に数を増やしている。(北村・杉村 2016) 加えてマレーシアのみならず東南アジア全体で男性よりも女性にとっての高等教育機会が優越している「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」が注目され、マレーシアにおいて女性の高学歴化が進んでいるとされている。(鴨川 服部 2022) そこで本研究では、よりミクロに高等教育市場化・国際化の流れを見るため、マレーシア国内にある私立海外大学の分校に通う生徒のパーソナルヒストリーを通して、彼らが一体どのような人々なのか、どのような特徴を持っている人々なのかを調べる。また彼らのストーリーを知る上で重要となるジェンダーとエスニックの観点から多角的に分析していく。

2. フィールドワーク概要

今回のフィールドワークにおいては、マレーシア現地において2023年9月3日から9月14日まで対象へのインタビューワークを行なった。インタビューの形式としては、対象のパーソナルストーリーを丁寧に聞いていくために半構造化インタビューの形をとる。インタビュー言語は英語であるが、英語のカリキュラムが基本である私立海外大学分校に通い一定の英語スピーキングスキルを持つ対象にインタビューする上では問題がないと考える。またスノーボールサンプリングの手法をとり、知り合いの知り合いで通っている学生から始めて、その学生の知り合いをまた紹介してもらうという形で行っている。今回は前回協力者(Aさん～Fさん)にインタビュー行くと共に、新しく7人の対象者にインタビューすることができた。またその繋がり新たな海外大学分校の生徒と知り合うことができたため、対象大学の幅も広がった。以下新規でのインタビューの詳細である。

対象者	概要
Gさん	<ul style="list-style-type: none">● Monash University Malaysia, Computer Science● Chinese Malaysian
Hさん	<ul style="list-style-type: none">● The University of Nottingham Malaysia Campus, Creative Writing● Malaysian
Iさん	<ul style="list-style-type: none">● University College Dublin Malaysia Campus, Medicine● Chinese Malaysian
Jさん	<ul style="list-style-type: none">● The University of Nottingham Malaysia Campus, Education● Chinese Malaysian
Kさん	<ul style="list-style-type: none">● Monash University Malaysia, Medicine● Malaysian / Sarawak 原住民
Lさん	<ul style="list-style-type: none">● Swinburne University of Technology, Sarawak Campus, Medicine

	<ul style="list-style-type: none">● Malaysian
Mさん	<ul style="list-style-type: none">● The University of Nottingham Malaysia Campus, Creative Writing● Chinese Malaysian

3. 現段階での考察と今後の展望

今年2月に行なったフィールドワークのインタビューに引き続いて行う形になっており、考察をするに十分な対象者の数ではない。だが今の段階での考察と今後の展望としては以下の通り、リサーチクエスション別にある。

① マレーシアの海外大学の分校に通う現地の学生たちはどのような人々なのか
教育的なバックグラウンドとして比較的国際的な教養を持って集まっていることは、前回のインタビュー結果からもわかっている。今回の対象者においてもほとんどがインターナショナルスクールに通っていたり、海外のカリキュラムを履修したという海外在住経験があるというよりは、「国内における」国際的な教養を持っていることがわかる。

また家庭的なバックグラウンドは前回同様、非常に彼らの選択に大きな影響を及ぼしており、特に両親自身のマレーシア国外での学業体験が大きく占めると考えられる。両親が海外大学分校に通っていたというよりは、留学していたかもしくは海外の大学において学士を取得したケースがほとんどである。彼らの成功体験や充実体験から子どもにもそれを受けさせたいという思いが見受けられる。そしてこれに関してエスニック間での差異は今の所見受けられない。しかしながら現在のインタビュー結果からこの結論に結びつけることは論理が飛躍していることもあり参考程度に留めたいと模索中である。

② 海外大学分校に通う生徒の大学選択において、マレーシアにおける性役割観はどのように影響しているのか

今回も華人に関しては鴨川 2008で明らかにされた「ジェンダー・トラック」にそう形で大学選択をしており、自らの興味関心や自己実現のために海外大学分校を選択して、現在も学業に励んでいることがわかる。反対にマレー人に関しては「ジェンダー・トラック」から外れた選択をし、その葛藤と戦いながら道を歩んでいる。そしてその葛藤があるからこそ華人と比べて選択に対しての意思は強いことが見受けられる。今後もより1人1人の発言からそれらを読み取っていきたい。

③ 海外大学分校に通う生徒の大学選択に関わる要因はエスニック間でどのように異なるのか
前回から華人に関しては、それぞれ華人としてのアイデンティティの高さは違うが、華人の「エスニック・トラック」に合わせた形の大学選択となっている。そしてマレー人に関して「エスニック・トラック」から大きく外れた選択をする中で少なからず葛藤を抱えていることがうかがえた。今回も同様にそのように考察することができるが、今後は彼らの中で海外大学分校はどのような位置付けであるのか、先行研究を通して労働市場の状況などを踏まえてより深く調べていきたいと考える。